一般社団法人日本医療薬学会

2022年度第1回定例理事会 議事録

一、 開催日時：2022年2月22日（火）　13時30分 ～ 17時

二、開催場所：インターネットを介したウェブ会議（Zoomを利用）

三、出席者

会　頭： 奥田 真弘

副会頭： 武田 泰生、山田 安彦、山本 康次郎

理　事： 石井 伊都子、石澤 啓介、出石 啓治、河原 昌美、吉光寺 敏泰、崔 吉道、齋藤 秀之、齋藤 嘉朗、鹿村 恵明、田﨑 嘉一、寺田 智祐、富岡 佳久、村木 優一、百瀬 泰行、矢野 育子

監　事： 大森 栄、佐々木 均

陪席者

年会長：三浦 昌朋

顧　問：木平 健治、安原 眞人、和田 一夫

事務局：星 隆弘、姫嶋 直子、針生 裕子、田中 結寿、大湊 宏味

欠席者

理　事：大谷 壽一

監　事：望月 眞弓

顧　問：山本 信夫、五十嵐 邦彦

四、議長： 奥田 真弘

五、会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事15名の出席があり、定款第38条 に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六、議事の経過の概要及びその結果

１． 2021年度第6回定例理事会議事録の確認

議長より、2021年12月23日に開催された2021年度第6回定例理事会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

２． 協議事項

（１） 2021年度事業報告案

石澤理事より、本年3月20日に開催する第14回定時社員総会 （以下、本総会）の資料（案）を基に、2021年度事業報告（案）の概要が説明された。前年度に続いてコロナ禍における活動となった。第31回年会はオンラインのみでの開催となったが、10,000 人を超える参加者があり盛会に終わっ

たこと、同様にほとんどの研修会や集中講義等についてもオンラインでの開催となったが多くの参加者があったこと、また各委員会についてもオンライン会議での開催回数が増加するなど、充実した事業活動が見られたことなどが報告された。協議した結果、本事業報告案は了承され、本総会資料に組み入れることとなった。

（２）2021 年度決算報告案

崔理事より、本総会資料及び別冊(補足資料)を基に、2021 年度決算報告(案)が説明された。前年度に比べ、会員数、年会参加者、集中講義当の研修会への参加者、地域薬学ケア専門薬剤師への申請者などの増加による増収と、会議のオンライン開催による会議費や交通費などの支出の減少により、予算に対して上振れが生じた決算となったことが報告された。協議した結果、本決算報告案は了承され、本総会資料に組み入れることとなった。

（３） 2021 年度監査報告

佐々木監事より、本年 2 月 19 日に実施した 2021 年度監事監査に基づき監査報告があった。特に、事業活動については、デジタル化への移行や各専門薬剤師制度に係る議論が活発に行われ充実した活動が認められたこと、また、特段の指摘事項がない旨の報告があった。

（４） 第 14 回社員総会への対応

石澤理事より、新型コロナウイルスへの感染対策を講じた総会を運営することとし、成立に必要な最小限の出席者が本学会事務局に集合又はオンラインで参加するハイブリット形式により開催することとし、代議員には議決権行使書又は委任状を提出していただく形をもって総会を実施する方針が説明された。また、本総会の議案の一つに新役員の選出決議があり、新役員選任決議後に新会頭候補による就任の挨拶も行う予定であるため、本総会の映像を視聴登録の手続きをした代議員にオンラインで配信（ライブ配信）することが説明された。本件について、協議した結果、了承された。

（５） 薬学系学会等との連携に係る検討

議長より、日本薬学会と協議を進めてきた薬系学会による連合体・協議会設立に係る検討内容の報告として、公益社団法人化将来計画検討委員会において、当該協議会に参画するコア学会の候補と思われる学会のリストアップなどを進めたことが説明された。

（６） 事務局体制に係る検討

事務局より、2021 年度の事務局体制の報告及び 2022 年度の活動方針、事務局居室及び会議室の拡張時のレイアウト案に係る説明があった。協議した結果、昨年の理事会において、会議室拡張時の支出予測に係る検討を行い、財務上、許容出来る範囲であったことが確認された。

大森監事より、事務局としての今後の在り方を検討するきっかけとなり良い傾向と考えるという意見があった。また、佐々木監事より、監事監査の際には学会の事業活動が活発化している印象を受けたので、作業スペースや人員の拡充は必要と考えるという意見があった。続いて、安原顧問より、発足以来、事務局業務のスケールも拡大しているので複数の経験者を育てていく下地が必要ではないかとの意見があった。日病薬の木平会長より、日病薬が使用している会議室を医療薬学会で借り上げることに賛同いただいたことに感謝し、今後も協力して事業を進めていきたいとの発言が

あった。協議した結果、本案は了承された。

（７）地域薬学ケア専門薬剤師「2020 年緩和措置による暫定認定」に係る追加審査結果・地域薬学ケア専門薬剤師研修の中断・中止に係る取り扱い

出石理事より、暫定の申請者および連携施設の追加認定について認定委員会で審議したこと、2021 年度地域薬学ケア専門薬剤師新規申請（暫定申請）について、29 名の認定、2 名の不認定、退会を含む 31 名の認定取り消しがあったことが説明された。協議した結果、了承された。

さらに、連携研修の中止・再開を行うケースについて説明があった。詳細は 3 月開催予定の地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会および制度運営委員会で検討される旨の報告があった。

（８）学術第 4 小委員会からの提案「 パキロビッド（ニルマトレルビル リトナビル）の薬物相互作用マネジメントの手引き 」の学会ホームページでの公開

本議題については、学術第 4 小委員会の米澤委員及び大野委員に参加いただいた。両委員より、学術第 4 小委員会では、特例承認された経口 COVID-19 治療薬であるパキロビッド（ニルマトレルビル リトナビル）の薬物相互作用マネジメントの手引きを作成したこと、また本学会ホームページに掲載し広く活用していただきたいという主旨が説明された。続いて、学術第 4 小委員会の活動期間が本年 3 月をもって満了するため、本手引き公開後のメンテナンスや質問への対応が確認され、暫定的には学術第 4 小委員会のメンバーが対応するが、継続的な対応については医療薬学学術委員会で検討する意見があった。協議した結果、本手引きの学会ホームページ上での公開や本小委員会の継続に係る医療薬学学術委員会での検討が了承された。

（９） 第 36 回年会年会長候補者の推薦

富岡理事より、第 36 回本学会年会の年会長候補者として、年会長候補者推薦委員会において崔吉道 氏（金沢大学病院）を候補者として推薦したことが説明された。協議した結果、了承された。

（１０）がん専門薬剤師研修ガイドライン・同コアカリキュラムの改訂

河原理事より、がん専門薬剤師研修小委員会によって改訂作業が進められたがん専門薬剤師研修コアカリキュラムの改訂版として英語表記 2 か所の追記、同研修ガイドラインの改訂版として略語の追記や現状に則した文言に修正したこと、2022 年度のがん専門薬剤師の認定申請を終えた 4 月に両改訂版を公表することが説明された。協議した結果、当該ガイドライン・同コアカリキュラムの改訂は了承された。

（１１）薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン・同コアカリキュラムの改訂

石井理事より、薬物療法専門薬剤師研修小委員会によって改訂が行われた薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン、同研修コアカリキュラムの改訂について、一部文言の修正や現状に則した記述に修正したことが説明された。協議した結果、当該ガイドライン・同コアカリキュラムの改訂は了承された。

（１２）日本がん薬剤学会からの共催依頼

議長より、第 14 回日本がん薬剤学会（JSOPP）学術大会における１つのセッションについて、本学会との共催運営に係る申込みを受けたことが説明された。協議した結果、了承された。

（１３）前年度会費遡及納入に係る嘆願への対応(3 件)

田﨑理事より、会費の遡及納入に係る 3 件の嘆願について説明があった。協議した結果、了承された。

３． 報告事項

（１） 理事会メール審議に係る報告

前回理事会以降にメール審議された次の案件の概要と審議結果が報告された。

・2021 年度がん専門薬剤師 更新申請認定に係る再審査の結果（2/3）

（２）2022～2023 年度推薦役員候補者の選任

山本副会頭より、2022-2023 年度 推薦役員候補者と 2022-2023 年度 役員選任名簿が報告された。

（３）第 31 回年会実施報告

第 31 回年会の齋藤（秀）年会長より、第 31 回年会実施報告及び収支状況報告（中間報告）があった。

（４）第 32 回年会準備状況報告

第 32 回年会の山本年会長より、同年内の準備状況として、公募シンポジウムの登録受付を締切ったこと、また一般演題の申し込みを開始したことが報告された。

（５）第 32 回年会への演題登録(各委員会からの登録)

富岡理事より、第 32 回年会への演題登録について 4 件の応募があったことが報告された。

（６）後援依頼への回答

議長より、第 12 回九州山口薬学会主催のシンポジウムおよび「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」研究班による公開シンポジウムへの後援依頼があり、了承したことが報告された。

（７）委員会開催報告

河原理事より、がん専門薬剤師能力向上小委員会、がん専門薬剤師研修小委員会の委員会報告があった。

（８）その他

議長より、参考資料「JPHCS_Jan2022_Data Report」に基づき、前年のJPHCS誌の投稿数・採択率が従前に比して増加しており、順調に推移していることが報告された。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 17 時 00 分に閉会を宣言し、解散した。